

1 なぜ「見通し・振り返り」が大切なのだろう

☆「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を積極的に行った学校ほど全国学力・学習状況調査の**平均正答率が高い**。また、**学習意欲が高い**。」（文部科学省）
 ☆授業において、**子ども自身が「何を学ぶのか」を理解**し、結果として授業で**「何を学んだか」を実感**できる学習活動が大切です。

◎多くの学校でめあての提示や振り返りの時間の実践が行われています！

- ・ 目標を示す活動を計画的に取り入れた小学校 島根県 88.0%
- ・ 振り返る活動を計画的に取り入れた小学校 島根県 75.3%

2 「見通し・振り返り」の難しさ

★「学習を振り返り、まとめをしっかりとしたはずなのに、覚えてないなあ。」実は、教師が行っていると考えていても、そのように受け取っていない児童が存在します。

【児童の肯定的回答割合－学校の肯定的回答割合】

めあての提示 島根県：-17 振り返り 島根県：-12



※「授業の始めにめあてを提示する」「授業の最後に振り返りの時間を設定する」といった教師の計画を、**学習者である子ども自身が主体的に行えるように工夫**することが大切です。

見通し・振り返り

「自主的に学ぶ態度の育成」「学習内容の確実な定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」をめざして

3 「見通し」のポイント

★目標分析こそ授業の生命線

- ・ 学習指導要領や各校で付けたい資質・能力等から目標を明確にする
- ・ そして、「教えたいこと」を「学びたいこと」に変える工夫をする

★児童生徒自身が「何を学ぶのか・なぜ学ぶのか」分かること

- ・ 単元や授業を通した課題意識をもたせる（魅力的な学習課題）
- ・ 児童生徒自身から疑問が生まれる工夫（体験的な学習活動等から）

★児童生徒自身が「どのように学ぶのか」分かること

- ・ 学習の流れの提示（視覚化）
- ・ モデルを提示（イメージ化）

★学習環境などを工夫すること

- ・ 前時の振り返りを活用する
- ・ 目標は分かりやすい具体的な文言で示す



4 「振り返り」のポイント

★振り返りとは、児童生徒が自分の学習を自己評価すること

- ・ 分かったことなどを**自分の言葉**で記述する
- ・ 「分かったこと・できたこと」だけでなく、「よく分からなかったこと」や「もっと調べたいこと」なども書くようにすることも大切
- ・ 記述内容を高めるためには、教師からの評価と指導が重要

★振り返る活動と見通しを立てる活動が対になっていること

- ・ めあてと振り返りがつながるように、振り返る視点を児童生徒に示す
- ・ 振り返りの時間をしっかり確保することが大切

★振り返りにつながる板書・ノートを工夫すること

- ・ めあてや思考の過程等が見える板書を残したり、丁寧なノート指導を行ったりすることで、振り返りが充実する

★振り返りの内容を吟味し、指導改善に生かすこと

- ・ 児童生徒の振り返りを吟味することで、自分の指導を振り返り、次の指導に生かすことができる

5 実践例

「見通し」

【課題設定の工夫・解き方の見通し】

- ・ 国語では「単元を貫く言語活動」を計画したり、理科では単元の最後に行う「ものづくり」を単元の導入で提示したりするなど、児童に学ぶ目的を感じながら学習できるようにしている。
- ・ 算数では「図（表）にして考えたらよいのではないか」等の解き方の見通しについて話し合うようにしている。

【カードの作成・ゴールイメージ】

- ・ めあてや振り返りのカードだけでなく、各学年に希望を聞き、その他のカード（「ペアタイム」「終わった人は」等）を作成している。



「振り返り」

【振り返りの仕方・まとめ方】

- ・ 多面的な振り返りができ、学習意欲も高められるように相互評価や教師からの賞賛等も交えるようにしている。
- ・ 振り返りの言葉を出し合い、「めあてとつながっているか」「足りない言葉はないか」の視点で、児童の話し合いでまとめるようにしている。
- ・ 「分かったこと」と「もう一度調べたいこと」を分けて記述させ、児童の言葉から次時の学習課題を設定するようにしている。